

平成 30 年 5 月 30 日現在

機関番号：34428

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370644

研究課題名(和文)より効果的なインドネシア語教育カリキュラムの構築

研究課題名(英文) Designing a More Effective Indonesian Language Education Curriculum

研究代表者

浦野 崇央 (URANO, TAKAO)

摂南大学・外国語学部・教授

研究者番号：50288966

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、高等教育機関におけるインドネシア語教育のより効果的な教育カリキュラムの構築を目指したものである。

本研究を通じては特に日本人学生のインドネシア留学に焦点を絞り、日本の摂南大学外国語学部学生がインドネシア・スラバヤのストモ博士大学文学部へ留学した場合を事例として、実際のカリキュラム運用を行っていく過程で検討した。その結果、日本において基礎的な文法をマスターした後、留学を果たすことでより実践的な語学運用能力を高めることができるが、留学中には「読み・書き」の一層の訓練が必要であることが明らかとなった。一方で、言語の基盤となり得る文化や社会構造についての日本での学修の重要性が見出された。

研究成果の概要(英文)：This research aimed at designing a more effective curriculum for teaching Indonesian as a foreign language at higher institutions. The study investigated in what way the current curriculum had been managed for Japanese students studying in Indonesia, especially focusing on Setsunan University students studying at Faculty of Letters, Dr. Soetomo University in Surabaya. The study made clear that students can improve their practical skills when they study in Indonesia after they acquire the basics of Indonesian grammar. However, it is also clarified that they should be more trained in Indonesia so that they can develop fuller reading and writing proficiency. Another finding of this study is that it is extremely important, while they are in Japan, to fully learn about the culture and social structures of Indonesia, which serves as a foundation of acquiring the target language.

研究分野：インドネシア地域研究

キーワード：留学制度 インドネシア 教育カリキュラム 外国語教育 外国語教授法

1. 研究開始当初の背景

日本におけるインドネシア語教育は、1907年発足の東洋協会専門学校（現在の拓殖大学）に端を発し、戦前にまで遡ることができるほど長い歴史を歩んできており、現在では50を超える大学および数百の学部でインドネシア語の授業が開講されている。とはいえ、そのほとんどは第二・第三外国語として週1回程度学修する機会があるに過ぎない。第一外国語（主言語科目）として週に5回程度以上開講している大学は、全国で6大学に過ぎず、現代における外国語教育分野においてはマイナーな存在であることは否めない。

いっぽう、昨今のインドネシア経済の成長は目覚ましく、人口規模が世界第4位に達する、将来的な成長可能性の高いインドネシアに事業所を開設している企業からの求人数は増え続けている。しかしながら、日本全国でインドネシア語学ぶ学生の数は減少傾向にあり、「マイナー性」が強まり、各企業の要望に応えられず、人材の供給と需要はアンバランスな状況にある。こういった現状の背景には、昨今、国際語としての英語の必要性が殊更に強調され、大学生らの英語以外の外国語学習に対するモチベーションの低下が挙げられる。そして、より実用的な外国語学習を求めるあまり、インドネシア語をはじめとした「初修外国語」が敬遠される傾向にあることが挙げられよう。この点についてはこれまでの研究を通じて、インドネシア語については、まずは教材整備の遅れが問題点として挙げられている。具体的には、(1)初級教材のばらつき、(2)中・上級者向け教材の開発の遅れ、等である。

しかしながら、申請者はこのような外国語教育上の問題点のみならず、インドネシアあるいはインドネシア語に対する固定的なイメージの定着が無視できないものと考えた。すなわち、大学入学と同時にインドネシア語を履修するに際して、個々の学生がもち得るインドネシア語あるいはインドネシア社会に対するイメージが語学選択に多大なる影響を与えていると考えた。また、特に最近、日本の各大学では留学を必須条件としている例が多くみられるが、送り出し側と受け入れ側のカリキュラムの統合をはじめとした一貫した教育カリキュラムの構築がなされていない場合がほとんどであり、いわば「一方的な」送り出しをしているに過ぎないように思われ、それらについて今一度、整理・確認しておく必要があるものと考えた。

2. 研究の目的

上述の「研究開始当初の背景」を踏まえ、本研究においては高等教育における4年間の教育を通じて、留学を念頭に置いた際のインドネシア語教育カリキュラムの構築を目的とした。

先述のように、日本におけるインドネシア教育の歴史はたいへん長く、戦前にまで遡るこ

とができるが、他の外国語教育の場合と比較すると、学習者の数や教育カリキュラムの質といった点でまだまだ未熟であることは否めない。そこで、本研究においては、日本におけるインドネシア語教育上の問題点を改めて整理し、その上でより効果的な教育手法を探り、教育環境の整備やカリキュラム開発へと結び付けていく。特に、全国の大学で力が注がれている留学制度に焦点をあて、留学先の教育カリキュラムと如何に連動させていくのか、留学を通じてのキャリアデザインを踏まえたカリキュラム開発を行っていく。そこで、具体的にはまずは日本の高等教育機関における、インドネシア語教育上の問題点の抽出・整理を通じて、新たな教育カリキュラムを構築する。そのカリキュラム開発にあたって、送り出し側の大学と受け入れ側の大学との統合カリキュラムが必須だと思われ、「外国語教育」分野に留まらず、「地域研究」あるいは「異文化理解教育」といった分野も念頭に置きつつ、カリキュラム策定を行っていく。

また、本研究は、特に大学在学中の海外語学留学を義務化している大学の教育カリキュラムの策定に十分に有益な示唆を与えることになるものと考えた。

3. 研究の方法

具体的な研究の方法として、留学の送り出し側と受け入れ側の教育カリキュラムの現状把握を行い、問題点を抽出し、留学を念頭においた4年間一貫の教育カリキュラムの策定を行った。

本研究においては、事例研究として、送り出し側を摂南大学外国語学部、受け入れ側をインドネシア・スラバヤのストモ博士大学（Universitas Dr. Soetomo）文学部を取り上げ、摂南大学生の半年あるいは一年の留学を通じて、何をどこまで獲得しているのかを明確にし、日本とインドネシアの双方の大学の教育内容の精査を行った。また、本研究の遂行に際しては、インドネシアの高等教育機関のうち、外国人向けのインドネシア語プログラム（BIPA: Bahasa Indonesia bagi Penutur Asing）を開講している諸機関の教育カリキュラム編成を参考にし、開講科目それぞれの目的と科目間の相互補完状況を確認した。

4. 研究成果

本研究は、高等教育機関におけるインドネシア語教育のより効果的な教育カリキュラムの構築を目指したものである。

まず初年度は、外国語教育関連の基礎文献の収集および先行研究の整理を行い、合わせて日本の高等教育機関（摂南大学）のインドネシア語教育カリキュラムの問題点を抽出した。日本における教育においては、語学教育の場合は体系的なカリキュラム編成となっているが、現地に関しての知識の欠如により教育内容に限界が生まれていることが明ら

かとなった。

2年目においては、日本とインドネシアの高等教育機関間における連携協定締結の実態を把握し、インドネシア・スラバヤのストモ博士大学とジャカルタのLIA 外国語大学(STBA LIA)において視察を行った。現在、日本の多くの大学がインドネシアの大学と連携協定を締結しているが、そのほとんどは特に理科系の学部・大学であり、特にインドネシア人学生の受入に伴うものであり、日本人学生がインドネシアへ留学することを目的としている例は少ないことが明らかとなった。

3年目には、摂南大学とストモ博士大学のインドネシア語教育カリキュラムの現状を把握した。それを通じて、双方向的な一貫した教育カリキュラムになっていない部分など、問題点が浮かび上がった。

最終年度においては、これまでの研究成果を踏まえ、留学を念頭に置いた4年間一貫のインドネシア語教育カリキュラムの策定を行った。その際、インドネシア語教育カリキュラム策定においては、単に「語学教育」分野だけに限らず、「地域研究」的視点、すなわち、インドネシアの社会・文化構造や自然環境、歴史的背景を踏まえることが重要である点が明らかとなった。また、送り出し側大学においては、受入れ側大学に「お任せ」するのではなく、一貫したカリキュラムとなるよう、外国語教育の分野に留まらず、インドネシア語やインドネシアに対する固定的なイメージを柔軟にしていけることが肝要だとした。そして、研究の総括として、インドネシア語による成果、*Kurikulum Bahasa Indonesia bagi Pembelajar Asing dalam Bingkai Kerjasama antar Perguruan Tinggi* を公刊した。

本研究は、単にインドネシア語教育分野に留まらず、外国語教育全般にわたって有益な示唆を与えることができよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

浦野 崇央、シシリア・タントリ・スルヤワティ、日本人留学生の問題関心 ストモ博士大学における摂南大学留学生を事例として、インドネシア言語と文化、査読無、第24号、2018、pp.41-49 (予定)

浦野 崇央、留学に際する教育カリキュラム統合の可能性 摂南大学生によるストモ博士大学での学修を事例として、インドネシア言語と文化、査読無、第23号、2017、pp.31-42

〔学会発表〕(計 6件)

浦野 崇央、シシリア・タントリ・スルヤワティ、日本人留学生の問題関心、日本インドネシア学会第48回研究大会(於：天理大学袖之内キャンパス)、2017

URANO, Takao、Cicilia Tantri Suryawati、Pembelajaran "soft skill" bagi Pembelajar Bahasa Asing, Studi Kasus: Mahasiswa Universitas Setsunan yang Belajar di Universitas Dr. Soetomo、International Seminar: Enrichment of Career by Knowledge of Language and Literature V (Ayola La Lisa Hotel, Surabaya, Indonesia)、2017

浦野 崇央、シシリア・タントリ・スルヤワティ、留学に際する教育カリキュラム統合の可能性、日本インドネシア学会第47回研究大会(於：愛知県立大学サテライトキャンパス ウィンクあいち)、2016

URANO, Takao、Cicilia Tantri Suryawati、Implementasi Kurikulum Bahasa Indonesia bagi Mahasiswa Setsunan di Universitas Setsunan dan di Universitas Dr. Soetomo、Enrichment of Career by Knowledge of Language and Literature IV (Universitas Dr. Soetomo, Surabaya, Indonesia)、2016

URANO, Takao、Hasil dari Penandatanganan Nota Kesepahaman (Mou) antara Perguruan Tinggi di Indonesia dengan Perguruan Tinggi di Jepang、Enrichment of Career by Knowledge of Language and Literature III (Universitas Dr. Soetomo, Surabaya, Indonesia)、2015

URANO, Takao、Kemungkinan Integrasi Kurikulum antara Universitas Dr. Soetomo dan Universitas Setsunan、Enrichment of Career by Knowledge of Language and Literature II (Universitas Dr. Soetomo, Surabaya, Indonesia)、2014

〔図書〕(計 5件)

URANO, Takao、Cicilia Tantri Suryawati、Penerbit Zifatama Jawa、*Kurikulum Bahasa Indonesia bagi Pembelajar Asing dalam Bingkai Kerjasama antar Perguruan Tinggi*、2018、132p.
URANO, Takao 他、ITS Press、*Current Issues and Trends in Language*

and Literature in Cosmopolitan Era (International Seminar: Enrichment of Career by Knowledge of Language and Literature V)、2017、346p.

URANO, Takao 他、ITS Press、*Communicating Across Cultures: The Role of Learning and Teaching of Language and Literature in the Era of ASEAN Economic Community (AEC) (International Seminar: Enrichment of Career by Knowledge of Language and Literature IV)*、2016、335p.

URANO, Takao 他、Laksbang Mediatama、*Readusting Foreign Language Teaching: Strategies & Practices (International Seminar: Enrichment of Career by Knowledge of Language and Literature III)*、2015、764p.

URANO, Takao 他、ITS Press、*What Should I Know About Foreign Language Acquisition? (International Seminar: Enrichment of Career by Knowledge of Language and Literature II)*、2014、315p.

〔産業財産権〕

該当無し

〔その他〕

ホームページ等

無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浦野 崇央 (URANO, Takao)

摂南大学・外国語学部・教授

研究者番号：50288966

(2) 研究分担者

無し

(3) 連携研究者

無し

(4) 研究協力者

シシリア・タントリ・スルヤワティ

(Cicilia Tantri Suryawati)

タタット・ハルヤティ

(Tatat Haryati)